

乙頁

第40号 通巻第8巻第5号

1988年9月1日発行

守山市立埋蔵文化財センター

TEL 0775-85-4397

〒524-02

守山市服部町2250番地

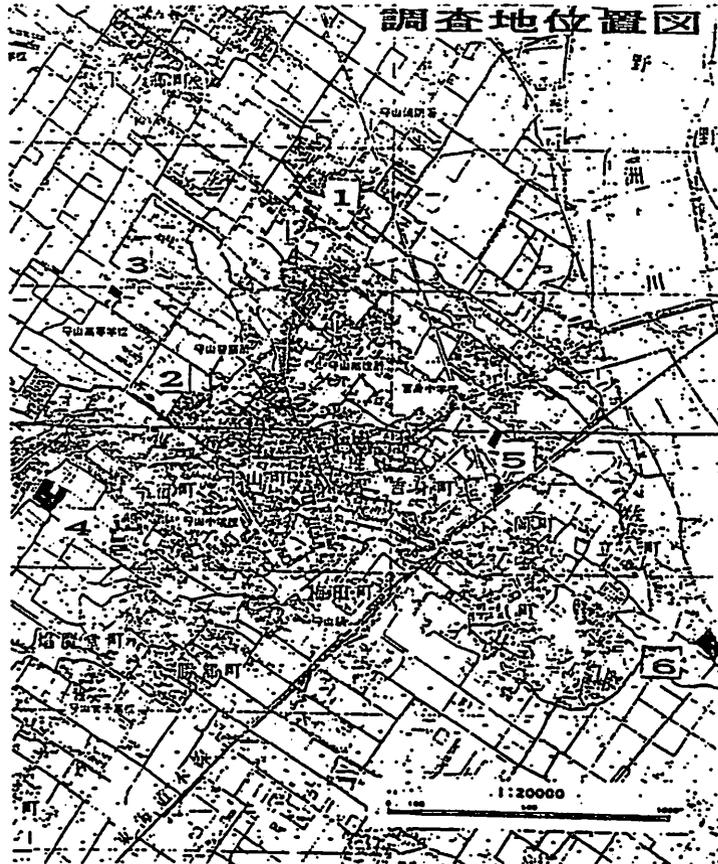
はじめに

9月とはいえ、まだ暑いことですが、お元気ですか。

前号発行後、8月8日から新たに二遺跡三地点で発掘調査を開始しましたが、相にくの天候不順で思うように進展していません。9月号はこの二ヶ月間の調査成果やセンターの行事等をお知らせします。

発掘調査の成果

7・8月中に終了した発掘調査は横枕遺跡、金森東遺跡、吉身西遺跡、経田遺跡の4ヶ所です。その発掘調査の成果を、検出した遺構、出土した遺物を中心に報告していきたいと思えます。



調査遺跡名

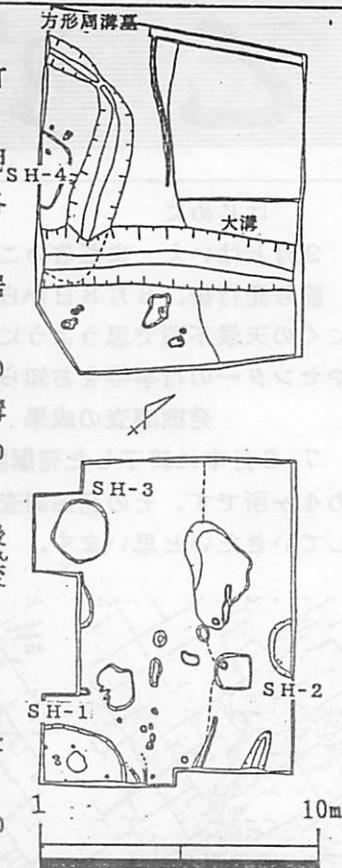
- 1 横 枕遺跡
- 2 金森東遺跡
- 3 吉身西遺跡
- 4 経 田遺跡
- 5 益須寺遺跡
- 6 荒 牧遺跡
- 7 杉江東・大宮遺跡

横杭遺跡の調査

個人住宅建築及び、駐車場造成工事に先だって、元町交差点より西へ約100mの地点を6月11日から7月11日の期間、発掘調査を実施した。その結果、弥生時代中期末の竪穴住居跡、土溝、大溝、方形周溝墓を検出し、各々の遺構から多くの土器が出土した。

竪穴住居は円形が3棟、方形が1棟で、これらの住居から約15cm程離れて、幅約4m、深さ1.5mを測る大溝を検出した。この大溝は、既往の調査から二ノ畦遺跡の西限域をめぐる環濠と見られる。大溝を切って方形周溝墓が造られている事から、二ノ畦環濠集落が廃絶したのちも、近隣に集落が存続していたのであろう。

方形周溝墓から出土した受口状口縁壺は、中期から後期への移行過程を示す特徴を示しており、土器の形式変化をたどる上で重要な資料であるといえよう。



金森東遺跡の調査

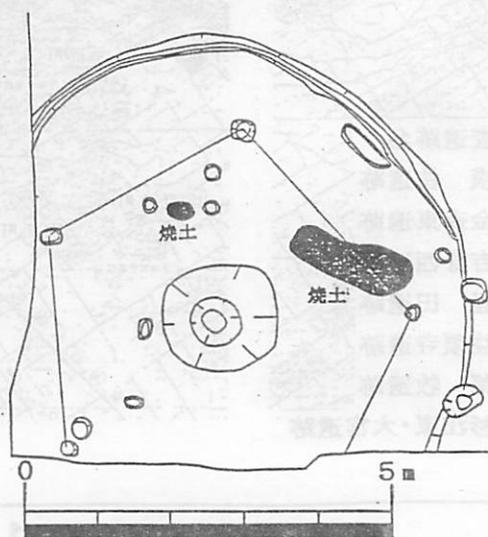
住宅建設に先だち、6月23日～7月26日の期間調査を実施した。調査地は守山高校の南東約100mの地点に位置し、昭和59年の調査で弥生時代後期～古墳時代後期の竪穴住居43棟を検出した場所に隣接している。

調査の結果、弥生時代後期の竪穴住居1棟と古墳時代中期の竪穴住居4棟を検出し、集落がさらに南東にのびることが確認された。

弥生時代後期の竪穴住居は西側と南側が調査地の外にあるため全体の形は明確ではないが、円形ではなく、おそらく五角形の形をしているものと思われる。中央には炉と考えられる大きな穴があり、底には灰が堆積していた。遺物は弥生土器や青色のガラス玉が出土した。

守山市内では伊勢遺跡で2棟、吉身西遺跡で2棟、五角形住居が検出されていて、今回はこれらに次ぐ8番目の発見である。

右図は、「五角形住居」と考えられる弥生時代後期の住居の平面図。線で結んであるように、柱も五角形に配置される。



吉身西遺跡の調査

市立図書館（守山町所在）の増築工事に先だて、発掘調査を実施した。5月30日より開始し、8月9日に終了した。調査対象地は現在の図書館をとり囲んでいて面積は約2000㎡であった。

遺構は造成土、旧耕作土を取り除いた地表下1mで、円形周溝状遺構、^{まんけいしゅうこうじょういこう}、竪穴住居2棟、^{たてあなすまの}掘立柱建物3棟以上と6条の溝、多数のピットを検出した。

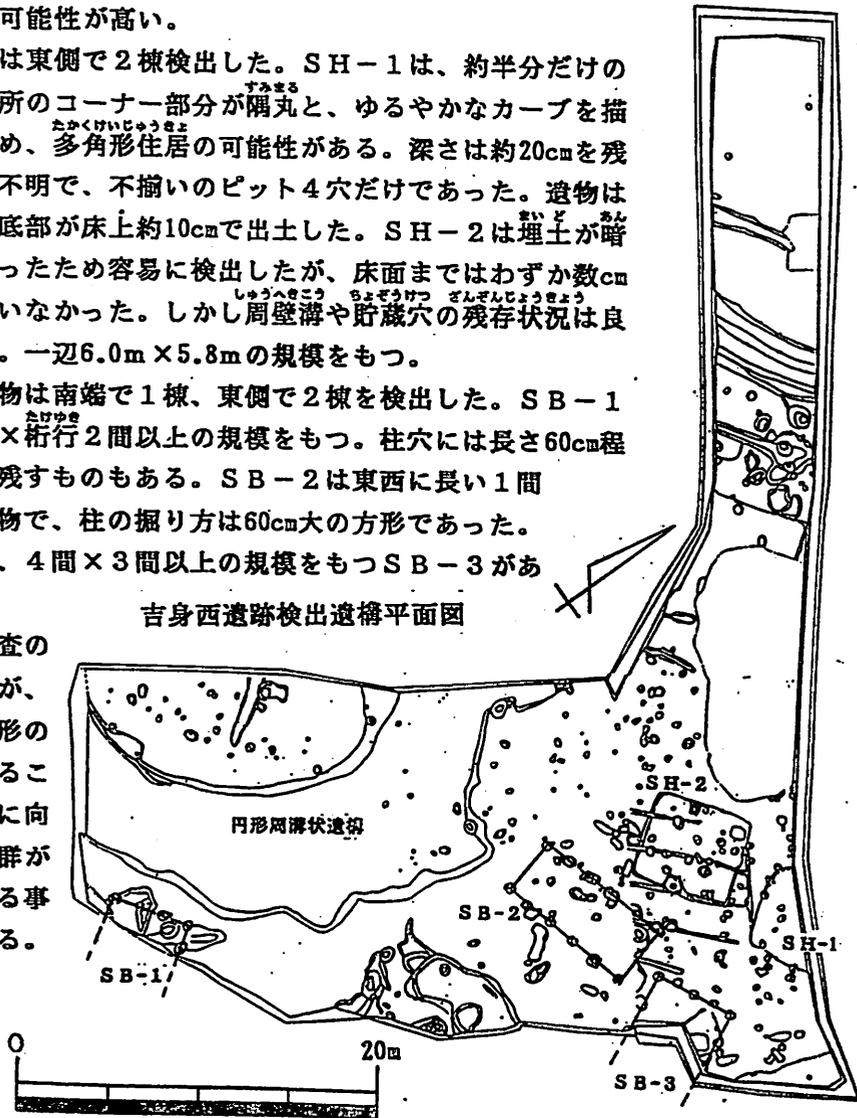
円形周溝状遺構は南西側でその一部を検出したが、さらに調査地外へ広がる。その大きさは、周溝の幅が6～8.5mで、台状部は直径15mと推測される。周溝は、3層に分けられる堆積土で埋まっています。上2層から^{りよくゆうあん}緑釉椀、^{がしつ}瓦質の三足釜、^{すゑ}須恵器、下層から須恵器杯身が出土した。この円形周溝状遺構は遺れた古墳の可能性が高い。

竪穴住居は東側で2棟検出した。SH-1は、約半分だけの検出で2ヶ所のコーナー部分^{すみま}が隅丸と、ゆるやかなカーブを描いているため、^{たかくけいじょう}多角形住居の可能性がある。深さは約20cmを残し、柱穴は不明で、不揃いのピット4穴だけであった。遺物は少なく、壺底部が床土上約10cmで出土した。SH-2は埋土が暗褐色土であったため容易に検出したが、床面まではわずか数cmしか残っていなかった。しかし^{しゅうへきこう}周壁溝や^{ちよぞうけつ}貯蔵穴の^{ざんざんじょうきょう}残存状況は良好であった。一辺6.0m×5.8mの規模をもつ。

掘立柱建物は南端で1棟、東側で2棟を検出した。SB-1は^{はりや}梁行3間×^{たて}桁行2間以上の規模をもつ。柱穴には長さ60cm程度の^{ちゅうこん}柱痕を残すものもある。SB-2は東西に長い1間×5間の建物で、柱の掘り方は60cm大の方形であった。この東側に、4間×3間以上の規模をもつSB-3がある。

吉身西遺跡検出遺構平面図

以上が調査の概要であるが、隣接地に地形のみだれがあることから東側に向かって古墳群が広がっている事が予想される。



経田遺跡の調査

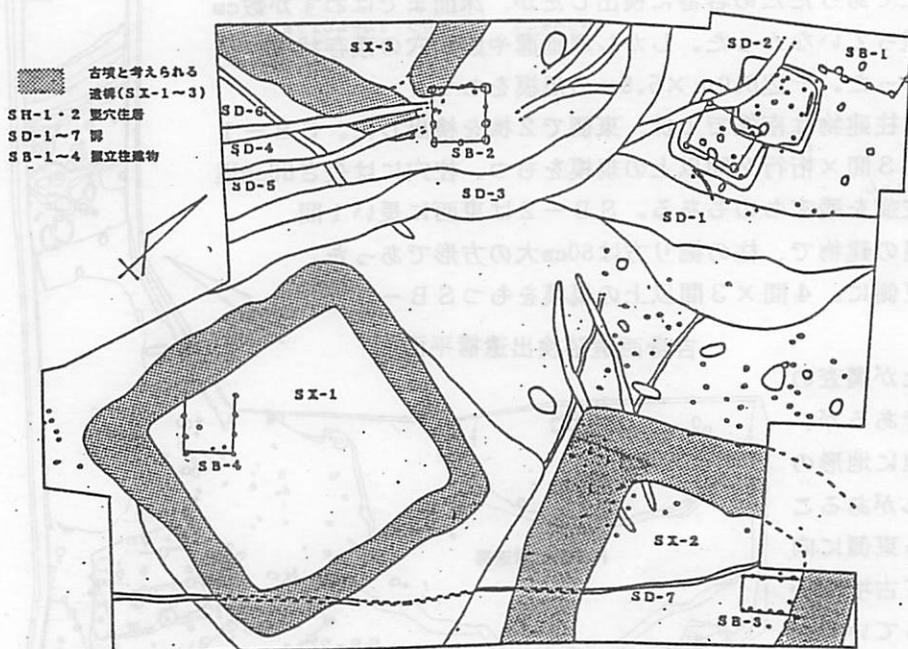
今宿町に分布する経田遺跡の発掘調査は、宅地造成工事に先だって6月1日から8月31日の期間実施した。場所は川向団地南側の水田地で、約2200㎡を調査した。

検出した遺構は下図のとおりで、このうち竪穴住居（SH-1・2）と溝（SD-1）は弥生時代後期、古墳跡（SX-1～3）、溝（SD-1～6）は古墳時代後期、掘立柱建物（SB-1～4）は古墳時代後期以降のと考えられる。

経田遺跡は62年にも発掘調査（当調査地北東に隣接する宅造地）を実施しているので、今回の調査成果と合わせて、当地の古代の様子を推測してみたい。

かつて野洲川主流だった堺川は多くの微高地を形成したが、その一つに経田遺跡が営まれた。今回検出の2棟、前回の2棟の都合4棟の竪穴住居から、今からおよそ1700年ほど前に小規模な集落が営まれていた事がわかった。1400年ほど前には、今度は4基の古墳跡（今回検出のSX-1～3と前回調査でも1基検出されている）の検出があるように墓域として利用された。そしてその後、掘立柱建物群（今回SB-1～4の4棟、前回では6棟検出されている。）が示すとおり、再び集落が営まれるのである。この集落が廃絶の後、どのような経緯で現在の農耕地に至ったのかは課題として残される。

なお調査地からは縄文土器や打製石ぞくも出土している。現時点では、短絡に集落と比定することはできないが、市内に分布する123遺跡でも縄文時代に遡る遺跡は希で、貴重な遺跡であることは間違いない。



経田遺跡検出遺構略図

実施中の発掘調査・調査予定

8月に入り、益須寺遺跡^{やすでら}2ヶ所と荒牧遺跡^{あらかま}の調査を開始しましたので、その状況についてお伝えします。この他にも9月から杉江東^{すぎえひがし}・大宮遺跡^{おおみや}の発掘調査も始める予定です。

どうぞ、お気軽に発掘調査現場を見学して下さい。

益須寺遺跡（第1地点）

マンション建設に先だち、8月5日から調査を行なっている。場所は琵琶湖大橋^{びわこおおはし}取付道路と、JR琵琶湖線^{しほ}が交わる地点の北東側である。（第2地点は、当地の北側に近接する倉庫会社の敷地内で実施。）現在までに古墳時代の溝と柱穴を検出しているが、今のところ、その性格についてはよくわかっていない。

益須寺遺跡（第2地点）

8月8日から、倉庫建設に先だち、対象面積約1000㎡の調査を開始した。現在約半分を調査中で、南北方向に伸びる溝3条、古墳時代中期の竪穴住居1棟を検出している。溝からは、須恵器の杯身などが出土していて、古墳時代後期のものと考えられる。竪穴住居は方形プランで、カマドが付設^{つけ}されている。床面からは、土器^{どくわ}のカメが出土している。

荒牧遺跡

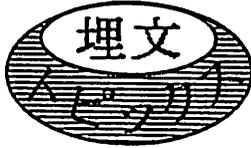
砂利採取^{じゃりさいしゅ}工事に先だち、8月8日から着手^{ちやくしゅ}している発掘調査は、立入町字荒牧^{たていり}に所在する。市域の東端で、栗東町と接^{りつとうちよう}していて、新幹線^{しんかんせん}の高架下^{こうかしだ}にあたる。この地は野洲川の直ぐそばで、このようなところに遺跡があるのかと疑うような条件下にある。しかし立入町地先^{ちまさき}には、今は消滅^{おぼつか}した大塚古墳、立入古墳などの古墳が築かれていて、古くから有力な豪族がいたと考えられる。今回の調査地付近には、その住居域が想定されている。また、立入町の集落内^{たていりむらつ}には立入宗継^{むねつぐ}の居城^{きよじょう}の立入城^{たていりじょう}があり、この城に関係する資料も発見される可能性がある。

現在、幅5m以上、深さ約1mの大きい溝と幅約1mの溝がみついている。古墳時代後期（6世紀）から室町時代の遺物が少し出土^{むろまちじだい}していて、室町時代の溝と考えられる。まだ掘り下げていないので、どのように使われたのかは不明であるが、調査面積が約3500㎡あるので、次第に明らかになってくるものと思われる。

杉江東・大宮遺跡

杉江東遺跡^{しんもりやまがわかいじょう}の調査は、新守山川改修工事に先だち、昭和61年、62年にも行われていて、今回が3年次目にあたる。調査地は2地点にわかれる。第1地点（杉江東遺跡）は61年調査（暫定通水路）に隣接する残りの半分で、長さ200m、面積2500㎡、第2地点（大宮遺跡）は、県道片岡一栗東線^{かたがは}より上流側^{りつとう}の定通水路^{ていつうすい}用地で、面積500㎡で、合計3000㎡を調査の対象とする。

これまでの調査では、杉江東遺跡で奈良時代から鎌倉時代^{かまくらじだい}の遺構、遺物が多くみつっていて、大宮遺跡でも県教委の調査によって中世の遺構が検出されている。調査は9月より開始する予定である。



郷土遺跡とのふれあい

守山市立教育研究所との共催で、「郷土の歴史研修講座」が8月19日、小・中学生を対象に開かれました。午前の部では、今宿町に所在する経田遺跡で実際に発掘調査作業を体験しました。残暑の厳しい中、慎重な手つきで、土壌や柱穴を掘る子供たちの真剣な表情が印象的でした。

体験学習を終えて、埋文センターで特別展を見学した後「野洲町の古墳」の演題で古川与志継氏（野洲町歴史民俗資料館学芸主査）の講演を聞きました。午後の部では古川氏の案内で野洲町妙光寺山古墳群を見学しました。この中には、湖南地方最大級の横穴式石室をもつ東光寺10号墳もあり、身近に大きな石室をもつ古墳のある事を知り、参加者の中から驚きの声があがっていました。

—— 埋文センターからのお知らせ ——

夏季特別展終わる

去る8月7日から8月21日までの期間で開催した夏季特別展「稲作の始まった頃」には、400名以上の見学者がありました。今回の特別展では、実物大の竪穴住居を展示ホールに復元した他、墓地の模型や装飾具、食物、生産用具などのコーナーをもうけ、弥生人をとりまく衣・食・住について展示しました。春季特別展につづいて来館者を対象に今回の展示についてのアンケートを実施したところ「わかりやすかった」という声が多かったのですが「もっとくわしくしてほしい」「展示品をもっとふやしてほしい」という要望があり、今後の展示に生かしていきたいと思えます。特別展最終日の8月21日には、「湖北の弥生時代」という演題で、長浜市教委の宮成良佐氏の講演会を開催しました。弥生時代の社会について、スライドを用いたわかりやすい講演で、約30名の参加者が熱心に聴講しました。

「日本列島発掘展」開催のお知らせ

前号でもお知らせしました「日本列島発掘展」が、9月15日から20日までの期間京都会場で開かれます。場所は丸京京都店7階特設会場です。同展は全国公立埋蔵文化財センター協議会が主催するもので、守山からは、人面墨書土器や服部遺跡出土の琴、川原田遺跡出土の墨書土器などが出陳されます。どうぞご見学下さい。

編集後記

例年になく雨の多かった夏も終わろうとしています。発掘調査や特別展などに追われて、いつの間にか夕暮れに「つくつくぼうし」の音が聞こえる今日この頃です。天候と同じで、優勝候補と思われた高校野球も四国四県ともに初戦敗退に終わりましたが、残り少ない夏休みを田舎で楽しみたいと思っています。